

令和5年度生野区区政会議 第1回まちの未来部会

1 開催日時

令和5年6月16日（金） 19時00分～20時40分

2 開催場所

生野区役所 5階 502・503会議室

3 出席者

（区政会議委員）6名

川本委員、船方委員、宮崎委員、北口（英）委員、廣川委員、山納委員

（生野区役所）6名

筋原生野区長、小原副区長、大川企画総務課長、木村地域まちづくり課長、川楠まちづくり推進担当課長、杉本区政推進担当課長

4 委員に意見を求めた事項

（1）令和4年度生野区の取組みの振り返りについて

資料1 令和4年度生野区の取組み振り返りについて
（まちの未来部会：抜粋分）

参考資料1 令和4年度生野区の取組み振り返りについて
（まちの未来部会：抜粋分）＜説明スライド＞

参考資料2 いただいた主なご意見等（要約）と区の考え方、対応
（令和4年度第3回全体会分）

（2）その他

参考資料3 令和5年生野区区政会議委員改選について（お知らせ）

5 会議内容

○杉本区政推進担当課長

それでは、皆様お待たせいたしました。

定刻になりましたので、ただいまから、令和5年度生野区区政会議第1回まちの未来部会を始めさせていただきます。

委員の皆様、ご多用のところご参加いただきまして、ありがとうございます。

私、事務局の生野区役所企画総務課の、杉本と申します。着座にて失礼いたします、よろしく申し上げます。

初めに、本日の会議の出席状況について、ご報告させていただきます。

本日の会議は委員定数9名に対しまして、6名のご出席がございまして、定数2分の1以上ということで、有効に成立してございます。

そして、本日の傍聴者は0名ということになってございます。区政会議に関する本市の規則によりまして、本日参加された委員の方のお名前、発言内容等が公開さ

れます。事務局において会議録を作成しまして、後日、区のホームページなどで公開させていただきますので、録音、撮影について、ご了承のほどお願い申し上げます。

なお、本日、筋原区長、少しちょっと喉の調子が悪いということで、少し聞こえづらい場合もあるかもしれませんが、委員の皆様、ご了承のほどよろしくお願いしたいと思います。

続きまして、本日の区政会議の趣旨と配付資料について説明いたします。

本日のまちの未来部会では、主にまちの魅力や地域活性化等の分野について、昨年度の生野区取組を振り返りまして、その評価や課題について、委員の皆様にご意見、ご議論いただきまして、次の取組へとつなげていきたいと考えて存じます。

本日の会議でいただいた意見は、後日開催されます全体会の場でも報告いただきまして、全ての委員の皆様にご共有いただくということになってございます。

それでは続きまして、本日の資料について、ご説明申し上げます。

左肩に当日用とございます「令和5年度第1回生野区区政会議まちの未来部会」の次第をご覧ください。

本日の会議資料を掲載しております。資料がおそろいでない場合は、また、後で事務局からお持ちいたしますので、よろしくお願い致します。

まず、資料1としまして、事前に送付してございます「令和4年度生野区取組振り返りについて（まちの未来部会：抜粋分）」というA4横の資料がございます。

続きまして、本日の配付の資料でございます。

まず、参考資料1として、前面にスクリーン写しておりますが、そのスライドを印刷したA4横の資料がございます。また、同じく参考資料2として、前回3月に開催させていただいた全体会における「いただいた主なご意見等（要約）と区の考え方、対応」というA4縦の資料がございます。そして、その他の参考資料3といたしまして、これは後にご案内いたしますが、「令和5年生野区区政会議委員改選について」というA4縦の1枚物の資料がございます。

最後に、次第には書いてはございませんが、部会委員の皆さんの名簿、そして、生野区の区政会議まちの未来部会に関するアンケート用紙を机の上に置かせていただいております。お手数でございますが、両面になっておりますので、裏表ご記入いただいて、そのまま机の上に置いていただいております。お帰りいただければと思います。

事務局からのご報告は以上となっております。

それでは、これからの議事進行は川本部会長、よろしくお願いしたいと思います。

○川本部会長

ご紹介にあずかりました、部会長の川本でございます。

ただいまより令和5年度第1回まちの未来部会を開催いたします。

区政会議は、地域でまちづくり活動を実際に行っている人たちが区役所と一緒に意見を述べる場になっております。部会でお出された意見は全体会議においても報告し、共有することとなります。その中で、この部会は生野区まちの魅力や、地域活性化等について、有効で活発な議論が行われるように、意見交換を進めてま

いりますので、よろしく願いをいたします。

それでは、筋原区長さんからご挨拶をお願いいたします。

○筋原区長

皆さん、こんばんは。生野区長の筋原です。

すみません、ちょっと風邪が喉に来てまして、声がお聞きづらいと思いますが、ご容赦ください。

本日はお忙しい中、生野区区政会議、まちの未来部会にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

コロナのほうも第5類になって、地域の活動も随分と活性化してきたと思っております。そんな中で万博も2年後に迫ってまいりまして、生野区でも、「EXPO いくのヒートアッププロジェクト」という名前で、万博に向けて万博の人、お金、新しい技術をしっかり生野区で受け止めて、熱量を上げて盛り上げていこうという、いろんな企画を今年もやっけていこうとしているところでございます。

一方で、私も風邪をひいたんですけど、コロナの感染者数が、医療機関に聞くと、この1か月で倍に増えているということで、また、はしかであるとか、O157、いろんな感染症もちょっと増えつつあるということなので、一応、私、コロナ、インフルエンザは陰性でしたので来させていただいてるんですけど、本当に皆さんお気をつけていただけたらと思っております。

本日は、令和4年度の取組の振り返りについてご報告をさせていただきます。まちの未来部会のテーマは、生野区のまちを持続可能なまちにしていくための様々な魅力発信や活性化というエンジンとなる分野でありますので、忌憚のないご意見をいただきまして、よりよい区政につなげていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○川本部長

はい、ありがとうございました。大体8時半ぐらいをめぐりに進めてまいりますので、皆さん方、ご協力をよろしくお願いをいたします。

それでは、ただいまより議事に当たりまして、学識の委員であります山納委員に会議の進行をお願いいたします。

○山納委員

山納でございます。よろしくお願いをいたします。

まず、今日の会議を進行していくわけですが、会議の次第に沿いまして、議事1「令和4年度生野区の取組みの振り返りについて」を区役所から説明をお願いいたします。

○武田企画総務課長代理

はい、皆さんこんばんは。企画総務課の武田と申します。

令和4年度生野区の取組み振り返りについて、ご説明のほうさせていただきます。着座して説明のほうさせていただきます。

まず、本日配付しています、右上に参考資料1と書かれた「令和4年度生野区の取組み振り返りについて（まちの未来部会：抜粋版）」こちらのほうの資料か、前方のスクリーンのほうか、どちらかをご覧ください。

詳しい内容につきましては、事前に送付してあります資料1にありますが、こちらはその中から抜粋したものとなっています。

2ページをご覧ください。

本日、皆様にご意見いただくテーマですが、大きく二つに分かれていまして、一つ目は、まちの魅力を高める。二つ目はシティプロモーションとなっています。初めに、まちの魅力を高めるについて説明させていただきます。

3ページをご覧ください。

これらのテーマを考えていく前提として、生野区の少子・高齢化と人口減少の問題があります。生野区は全国同様に少子化が進行し、大阪市24区の中でも年少人口の割合は低く、2045年には市内ワースト2になると見込まれています。

また、生産年齢人口の割合も同じく減少が見込まれています。人口減少や高齢化、それに、権利関係の複雑化も伴って、空き家が増えています。

経済面で見ますと、製造業の盛んな生野区でも、その数は減少し続けています。

4ページをご覧ください。

古くからのものづくりの盛んな生野区は、製造業の事業所数が市内24区で最も多く、高度な技術を持った企業がたくさんあります。そういったものづくりの技術を、子どもから大人まで幅広く知ってもらうことで、ものづくりへの理解と愛着を高め、まちの魅力へとつなげていくために様々なイベントを行っています。

5ページをご覧ください。

空き家対策としまして、スライド右側にありますように、空き家活用株式会社と事業連携協定を結び、区内の空き家等の情報交換や、空き家等の利活用促進に向けて連携した取組を始めています。

その一つとして、「いくのアキカツカウンター」を開設しています。こちらはノウハウを持った空き家専門アドバイザーが、空き家のオーナーが抱えている課題に寄り添い、空き家の流通を実現する相談専門カウンターであります。

また、空き家が多いというこの特性を生かして、空き家や空き地を有効活用するために、アキッパさんやスペースマーケットさんと連携し、スペースを借りたい人とスペースを貸したい人をオンラインでマッチングするサービスを始めています。こちらはシェアリングエコノミーといいまして、活用可能な資産（場所・モノ・スキル等）と、それを使いたい個人等と結びつけるサービスになります。

6ページをご覧ください。

続きまして、こちらにも資産の有効活用とも言えますが、区内の閉校となった学校施設を、これまでと同様に、地域の防災・コミュニティ拠点としながら、民間事業者による多様なノウハウにより有効活用し、持続可能な施設運営を図り、ひいては、周辺エリアの活性化につなげていく取組を行ってきました。既に、4校で事業者が決定し、元御幸森小学校では、食を中心とした複合施設として貸付けを開始。他の学校跡地もインターナショナルスクールや専門学校といった事業者が決定し、この4月から貸付けが始まっています。

7ページをご覧ください。

こちらは社会実験中の「いまざとライナー」と「オンデマンドバス」です。区内

における公共交通不便地域の解消を目指し、交通弱者をはじめ、区民の移動手段の確保、ひいては、地域活動の活性化を図るために、生野区地域公共交通検討会を開催しました。生野区にふさわしい地域公共交通の導入に向け、認知度・理解度の向上をはじめとした支援を行ってきました。なお、現在は区内の回遊性を高めるために、シェアサイクルの実証実験にも取り組んでいます。

8ページをご覧ください。

こうしたまちの魅力づくり・活性化に向けた取組ですが、個々の取組において、一定の目標や目安となる基準を立て、達成できたもの、あるいは基準には至らなかったもの、様々ありますが、これらの取組を振り返って、今後、より有効な取組につなげていくための課題としまして、生野区のまちが有するソフト・ハードの多様な地域資源を生かし、あるいは新たな資源を発掘し、組み合わせ、様々なシナジー効果を生み出すにはどうすればいいか。生野のまちにヒト・モノ・富が好循環し、新たな担い手が生み出され、それぞれの持ち場が広がっていくにはどうすればいいのか。これらの課題に対しまして、地域住民の目線から見て、もっと有効な手だて・アイデアはあるだろうか。そういった点を論点として挙げさせていただいています。

9ページをご覧ください。

次のテーマであります、シティプロモーションについて説明させていただきます。

10ページをご覧ください。

先ほども一部紹介しましたように、生野区には、ソフト・ハードの両面で多様な魅力資源があります。区民の方へのアンケート調査では、「生野区のまちが多彩な魅力あるまちと感じる」と回答した区民の割合は約60%となっています。さらに、「生野区のまちに愛着を感じる」と回答した区民の割合は約80%近くに上ります。一方で、「生野区が様々な人が訪れたい、住んでみたいまち」と回答した区民の割合は約50%まで下がります。あくまで区民の方の回答ですので、区外の方の意識調査ではありませんが、一つの目安になると思います。

11ページをご覧ください。

こういった現状も踏まえまして、これまでも区の広報紙で、区のまちの魅力を紹介したり、SNSで発信のほうをしてきました。

12ページをご覧ください。

こちらは公民連携でつくりました、区の魅力情報発信サイトです。イベント情報や、生野区の魅力につながるコンテンツを随時発信しています。

13ページをご覧ください。

以上の取組を振り返り、今後、より有効なものにつなげていくための課題といたしまして、生野区のまちに訪れたい、住んでみたいと内外に認知されるにはどうしたらいいか。生野区が持続可能なまち、発展していくまちになるにはどう進めていけばいいか。2025年大阪・関西万博の開催というビッグイベントを、生野区のまちの活性化にとってのビックチャンスとして捉え、そのチャンスを生かすにはどうすればいいのか。これらの課題に対して、地域住民の目線から見て、もっと有効な手だて・アイデアはあるだろうか。そういった点を論点として挙げさせていただいて

います。

以上、まちの魅力を高めるシティプロモーションの取組の説明となります。

委員の皆様、よろしくお願いします。

○山納委員

ありがとうございました。

では、今からお話をしようと思います。6人で1時間ちょっとあるので、一人10分ぐらいはしゃべれますね。2巡ぐらいしてみようかなと思っていますが、そうですね、この話をどう聞くかっていうところかと思っています。

何か私見みたいなどころから入ろうと思うんですけど、まちづくりってやりたいことと、やらなければいけないことっていうのがあるのかなと思っています。

特に住民がそこで安心して暮らしていくために、ちゃんとこれをやっていかないといけないっていうことがある。もう一方で、多分、このまちの未来部会のテーマである、まちの魅力とか地域の活性化っていうのは、やらなければいけないことを粛々とやるっていうことよりも、やりたい、区民、市民の人たちがこんなことをしたら面白いっていうことをがんがんやっている間に上がっていく、魅力なんてものは、ということのような気がします。じゃあ、やりたい企画、やりたい事業っていうものを、区役所にやってもらっていて、それで魅力は増すのかみたいな問いが多分あるんですね。それは、住民ががんがん何かいろんなことを面白く仕掛けていくとか、地区地区でそういうことをやっていくことによって上がっていく魅力っていうことなのかもしれない。

そういうことが一つ話し合ってみたいなと思っているところです。ですので、2周しようと思うんですが、まず1回目、1周目は、今、区役所の方にご説明いただいた話をどう聞いたかっていう話をそれぞれしていただくかなと思います。2周目に、じゃ、本当に、手だて、打ち手ですかね。課題意識というものがありましたけれども、本当にまちの魅力を増していくために、もしかしたら、自分たち自身は、どうすればいいのかっていうことを考えていく、そんな進行の仕方にしようかなと思っています。

ということで、話を誰から始めましょうかね。

川本部会長、振らせていただいてよろしいでしょうか。今の区役所の方のご説明を聞いて、感じたこと、質問を。

○川本部会長

二つのテーマでお話をいただきました。

役所が仕掛けていく、いろんな行事、いろんな催し、いろんなことがあると思うんです。やはり、自分たちの主体性というかな、何をしたいのかっていうのを住民側が自分たちで湧き出してくるというか、生み出してくるというか、そういうことをもう少しいろんな場所で、できるような仕掛けということをもとにやらないと。いろんな行事がありまして、いろんな役所の催しがあります。それに参加するということは、自分に興味があるところは参加するけれども、興味がないところは参加しない。それだったら、もっと自分たちで興味のあるものを生み出していかうではないかというような仕掛けをどうしてつくったらいいのかなというの、ちょっと皆

さん方にお聞きしたいなと思ってます。

○山納委員

そんな感じでよろしいですか。

○川本部会長

はい。

○山納委員

はい。3周ぐらい回るかもしれません。お願いいたします。

○船方委員

仕掛けづくりといっても、なかなか難しいとは思うんですけども、区役所だけでできるものと、あと、民間の協力を得ないといけないものと、両方あると思うんですけども、例えばなんですけど、JR西日本とかがミステリーツアーとかっていうのをしていますよね。名探偵コナンとコラボした感じの。ああいう感じの生野版とかっていうのを企画して運営してくださる民間業者、それに区役所っていうものがくっついて、謎解きをしながら生野区のいろんなところを巡るみたいなものとか、あと、生野区でよくスタンプラリーを、各地域でやってらっしゃるところ。特に、巽のほうとかは、すごく大きな規模でやられてて、あれが本当に生野区全体に広がれば、もっと面白いんじゃないかなというふうに、私は個人的に思ってます、スタンプラリーをするにも生野区も全部広いので、子どもだけってのはできませんので、大人も一緒になってなると、巽でされて、これはスタンプラリーを全部回っていくと、最後に抽せんがあって、豪華賞品がもらえるというので、何かヘルシオとか電化製品とか、そういったもののプレゼントっていうのがあったので、ちょっとコストがかかってしまうので現実的ではないかもしれないんですけども、例えば、生野区内で食べていただける食事券だとかそういった形に変えて、生野区以外の人をもっと生野区の奥のほうに呼び込むような企画っていうのが、民間と協力し合ったらいいんじゃないかなというふうに、今日、考えながら来ました。

○山納委員

ありがとうございます。

そうですね、面白いイベントを提案してしまうっていうことが、この会議はできるんだっていうことに今、気づきました。

では、続いてお願いいたします。宮崎委員。

○宮崎委員

今さっき、ちょっと見てたら、夏祭りで子どもみこしに彌栄神社が参加する人に1,000円の図書券と、お菓子をプレゼントするって書いてあったけど、そないせな来えへんねんね、子どもがね。そんなもんなんかなと思って。生野区は日本人以外のいろんな人が住んで来てるから、その人たちにいろんなことを立ち上げてもらって、活性化するっていうのが、生野区の特徴もあるし、生野区の持つ魅力違うかなと思うけどね。それをどういうふうにして僕らはバックアップしていくかということやと思うねんけどね。

○山納委員

廣川委員、お願いします。

○廣川委員

こんばんは。お元気ですか。

資料を見て思ったのが、一番、シティプロモーションのところの区民のアンケートがちょっと雑いなっていう。区民の割合は6割でって、年齢とか人数やったりとか、もうちょっと詳細がほしいなっていうところが、若い子たちが多いんだったら追求していく内容が重要なのではないのかなっていう。

やっぱり、つまるところ、若い子たちがどれだけ定住したいかなっていうところに尽きると思うかなというのを、いろいろと画角があり過ぎてちょっと難しいんですけど。全てにおいて解決できるんじゃないのかなっていう、まちの魅力を、3ページの。空き家の増加っていったところも人ありき、人がいたら活用する、人がいれば解決の糸口が見つかるかもしれないし、人口減少っていう区の問題やったりとか従業員数の減少っていうもう、ほぼほぼ1択なんじゃないかなっていう。じゃ、それをどうやって呼び込むのかっていったところは、先ほど、駅のスタンプラリーとかもあったりとか、おっしゃってた内容があったりとかもあると思うんですけど、もう既に民間で動いているところが、もしかしたら、生野のところにあるのかなと。個人単位でやっているところを、区がどういうふうな表現で見せていくのかっていう、ポジショニングになれば面白いんじゃないかなと思うんですけど。

よくよく、まとめサイトやったりとか、情報っていうのがもうしんどくなってきた時代において、まとめて収益を上げているこの縮図がもう完成されてるので、生野の中だけで、小さな単位のやつをまとめて大きなように見せるっていったところを区役所のところがやったらおもしろいんじゃないかなってちょっと思いますけどね。

あと、大きな内容をただ単にやるだけにどの行政もなりがちで、目的をがっつりと絞るっていうんだったら、外からの流入っていう、住みたいまちに見せるやったりとかをどう広告していくのかな、プロモーションしていくのかなっていう、例えば、さっきのスタンプラリーのところ、外からの人が集まるに当たって、その集まった人たちに対して生野をPR、広告する部材がないですよ。

例えば、空き家、生野区で管理、例えばですけど、民間に委託してもいいんですけど、生野区が管理してる空き家はこっだけありますと。来てくれた人に対して生野区って、何か始めやすいですよ、空き家のストックがこっだけあって、マッチングさしてもらいます、アプローチできるんだったら、これって大きなイベントの単発の一発じゃなくて、継続する意味のある目的を持った、深い目的を持った一発になるのかなとか。いろいろともっとちょっと楽しんで、この区政会議もやっていけたらなって思っております。何かぐちゃぐちゃやけど。

○北口（英）委員

こんばんは。今まで、皆さんの話いろいろ聞いてまして、先ほどちょっとお祭りに触れられた方もいらっしゃいましたけども、今6月、来月からまた、巽のほうでは、夏祭りが始まります。こうやって、今、この夏祭りというアイテムと言うたらいいのかどうか分かりませんが、これを有効に使えたらなとは思いますが、ただ昨今やっぱりね、だんじりというものは、音も出すもんですから、どうしても、曳

航は通常どおりしたとしても、やっぱり中には警察に電話されて、「うるさい、はよどっか行け」というのも結構あるんですよ。その中で、また今日、うちの青年団の団長が警察のほうに道路許可の申請行ったんですよ。通常ならいつも、ぐるっとだんじり引いて帰ってきて、10時、10時半、遅くて11時に帰るというのを、例年出してたんですが、今日に限ったら、「もっとはよ帰ってこい」というふうなことをも言われるようになってきました。できる限りやったら、僕らも迷惑かけようとしてやってないですけども、やっぱりだんじりってというのはとても重たいもんですから、しょっちゅう走るわけにいきません。走るイコール言うたら事故、けがのもとになりますから、やっぱり安全運行のためゆっくりやるほうでやってるんですが、はたから言ったら、早く帰れとなってくる。となると、距離を短くするのがいいのかとなるんですが、そうなるらいつも行ってるところは外してまうと、やっぱり「何でうち来えへんねん」ということになりかねない、というような矛盾がずっとついて回るんですけども、そういう意味で言ったら、ある意味、それは、祭りやるんも勝手と言われるかもしれないけれども、それでも一応、130年ぐらい続いている祭りですから、少なくとも元々あるねんから、それをもうちょっと理解してほしいなというね。やるほうですけど、もし地域の人たちも、それぐらいもうちょっと広い心意気の理解をしてほしいなというのが実際あるんです。かと言って今、始まった祭りじゃないの間違いですからね。それをあるの分かってて、「うるさいうるさい」って言われるのもちょっとね、やっぱり、いうのはちょっとどうかなとは思いますがあるんでね。ある意味、せっかくあるもんなんやから、もうできるもんなら、夏と秋と2回、もうちょっとね相互理解できたらいいかなとは思いますが。

○山納委員

僕も1巡目しゃべりますね。

今のお話はだから、まちの魅力を高めるって言ってるけれど、まちの魅力として伝え継いでいる祭りっていうものが、ちゃんとできないじゃないかっていう話として聞こえますよね。何をもちて魅力と言うのかっていうようなことなのかなと思います。

では、僕もその1巡目で区役所の方の説明についての質問、意見っていうことだったので、いろいろしゃべってみようかなと思います。

まちの魅力を高めるっていうことで人口が減って高齢化が進んでいる、空き家が増えている、製造業が減少しているということだけが書いてあるわけですが、この会議で何度か出ている、例えば、コリアタウンにすごい人が来てますよ、特に、コロナ以降っていうのは、まちの魅力の話ではなかろうかとか思います。

すごく若い子が鶴橋に来てるっていうことと、それは来てるだけで住んでないっていうのは、まちの魅力の話ではないのだろうか。つまりまちの魅力っていうときに、どうも定住人口を増やすっていうところにフォーカスをしているけれど、来街者数を増やすっていうのもまちの魅力の話なのではないかと。その部分っていうのはどうなんだろうというのを、一つは思います。

ものづくりを身近に感じる、ものづくり技術の紹介っていうのがあります。何度かオープンファクトリーの話をしたことがあると思います。工場を開く、見に来て

もらって、市民の人たちがこんなものをまちでつくってたんだっていうことに気づく。騒音の問題とか、トラックが来るとか苦情ばかり来てたけど、こんなのを作ってたんだっていう相互理解につながるっていうことも、もちろんあるんだと思います。子どもたちが喜ぶ、誇りに思うってこともあるのだと思いますが、ものづくりの本分っていうのは、仕事が増えるですね、受注が増える。だから、その仕事で食べていくことができるようになることのために、多分、労力を注いだほうがいいし、世の中のオープンファクトリーっていうのはそのためにやっている。受注を増やす、あるいは、自分のところの商品を作る、それを市民に、消費者に買ってもらうってような取組をしていくということかもしれません。B to BとB to Cっていうものがありますが、工場の仕事ってねじを作ってますとか、加工してますって一般の区民が行っても買えるものではないものを作ってるところってのもいっぱいある一方で、リゲッタさんみたいに、今日、履いてないな。こんな靴を作ってるんです、うちはっていうのは買えますね。お客さんが買える。だから、本当を言うと、区民が買える、市民が買える商品を作っていく、それを広げていくっていうところまで、ものづくり産業を再生させていく、活性化させていくっていうプランを構築していく必要があるのではないかなと見ていて思います。

空き家ですね。空き家活用株式会社と連携していると書かれています。

具体的に何軒の空き家が何に変わって、どんな取組がまちに増えたのであろうかということが気になります。カフェになったのか、それとも何か居場所みたいなものになってるのか。コワーキングスペースになって若い人が起業したみたいなことが空き家で起こっているんだらうかとか、そういうことですね。空き家を活用することによって、何の魅力がどう増したのかっていうことを多分、結果が出てるんでしょうから、それを知りたいなというのを見ていて思ったりいたします。

そして、閉校を活用するということが進んでいる、御幸森小学校の話は知っていたけれど、三つ増えているということですね。学校、学校、学校ですかね。教育を事業にしてる会社が、学校活用を三つ増やしたというふうに書かれていて、これからもまた、来年度以降も学校廃校活用は進んでいくのだらうと思います。今後どんなふうに、また学校が増えるのだらうか。それとも別の使い方っていうのが模索されていくんだらうかっていうことが気になりますのと、あまり詳しくないんですが、生野南小学校は、荒れていた学校を教育で変えたっていうことで全国的に有名になった学校ではなかったかなと思っています。あの教育ってどうなったんだらうかっていうことを今、気にしていて、知っていたら誰か教えていただけたらなと思っています。

交通ですね。いまざとライナーとオンデマンドバスっていうもの、認知度、理解度の向上支援ということをやっていたとお話をいただきました。

どのコースにニーズがあるのかっていうことですか。生活動線としてこういう交通があって、こんなふうに行けると便利だったっていうこととか、観光動線というんでしょうか、来街者動線として、こういうものがこう使われます。また、来街者動線ってのはほとんどなくて、生活動線として、すごく便利だっというふうに使われているのかみたいな。これをやることによって誰がどううれしいのか、何が

どうよくなってるのかっていうことが知りたいなど、聞いていて思ったりします。

シティプロモーションですね。魅力がある、愛着を感じるという人がいると書かれています。シティプロモーションとして広報いくので発信をしてますということと、「いくのぐらし」という官民連携でしたっけ、の取組が始まってるって説明をいただいたんですが、このサイトを見に行ったら、月に1本も記事が書かれていないっていうのに気になります。何の情報をどう発信していくと、生野区って魅力的になるのだろうかですよ。ということが気になるということ。

もう一つ、カウンターパートという問題です。だから、行政が頑張るのではなくて、面白い地域って大体、どうかしてるぐらい地域の情報発信している個人がいたりとかですね、NPOがあったりとか、面白いお店があったり、何かバルやってますとか、面白い、生きのいい動きっていうのがまちにあって、それをどんどん、どんどんいろんな発信の仕方をしてることによって、うわ、ここ、まずい、住みたいなって思わせる、思うようになっていくっていう、何か熱量があるような気がしています。いくのぐらしてのはどれぐらいの熱量を持って何を発信していこうとしているのだろうかということが気になりますっていうふうなところでしょうかね。

1巡目、発表いただいたことについてということだったので、僕はこのような感想を持って発表を聞いています。

一番最初に言いましたように、これは区役所への駄目出しということではなく、やりたいって思ってる人たちが、面白がって取り組んでいる間に、魅力なんてのは増すものだと思っているので、これに対して評価をという今のような話になるのですが、今からもう1巡か2巡する間に、じゃ僕らはどうやって、生野区の魅力をつくって発信していくのか、いくべきなのかっていうことについて、ぜひ皆さんの意見をいただきたいと思います。

すみません、大分しゃべりまして、2巡目、お願いいたします。

○川本部会長

これ、おかげなのかどうか分からないですけども、コロナがありました。今まで地域で大きなイベントとして、盆踊りをしていました、小学校の校庭で。たまたま勝山には、大きなだんじりがありません。だけど、子どものだんじりはありますので回っていました。そういうことがコロナでできなくなった、3年前ぐらいからね。そこで生まれたのは何かっていうと、みんなでだんじりを引っ張ろうと思ったら、マスクしては引っ張られへんですよ。特に、夏場ですのね。それに代わるもの、盆踊りは小学校全部、盆踊りだけやったら誰も来ませんので、食べるイベントが周りにある、それも、コロナでできないということで盆踊りやめました。

じゃ、何しようというところで、若い青少年指導員の人を中心にして何するっていう問いかけをしました。そうすると、外でマスクをかけてできるものってないかっていうことで、一つは、夜間ハイキング。夜8時に子どもたちが小学校に集合します。お母さん、お父さんついてきてもらってもいいんですが、来なくても構いません。勝山小学校から大阪城公園へ歩いていく。これもものすごく参加者が多かったんですね、小学生の。中学生はその小学校の子どもたちのリーダーで、班ごとにリーダーをつけるということで。小学校、数少ないですけども、200名ぐらい来まし

た、子どもがね。そこに親がついてきますので、かなりの数が大阪城まで夜、ハイキングをしました。そういうことを考えました。

それからもう一つ、駄菓子祭り。これはあの勝山小学校で。もうとにかく外でやろうよと。そしてみんな、マスクしたままでもできるやんということで、皆さん方昔懐かしい、ポン菓子ってありますね。あのポン菓子の人を呼んできて、あそこでポンやる。子ども初めてでね、大人も懐かしいということで、それから、駄菓子をみんなで仕入れてきて、みんなで食べよう。そういうイベントを校庭の中でやって、これがすごく、子どもたちも大人も喜んでいただいて、人数はどのぐらい来たかカウントしてないんですが、かなりの数の人が来て楽しんでいただいたと。

それと、これも若い人にお願いしようということで、青少年指導員の皆さんに、夜、打ち上げ花火をしてもらいました。かなり高くまで上がる打ち上げ花火を300発ぐらい買ってきて、バンバンと。子どもたちは、金網の外、学校の外から見てもらうと。中で青指の人が仕掛けをしてやるというような、コロナ禍であったために、新しい催しが生まれてきたのかなという気がします。そういったものやってみました。

○山納委員

ありがとうございます。新しく自分たちでつくっていくほうのお話をいただきました。

お願いします。

○船方委員

そうですね。確かに人口減少が大きな問題だなと思うんですけども、人を呼ぼうと思うと、まちがきれいじゃないとなかなか来なかつたりとかあつたりするので、これはでも、生野区だけでできる問題ではないかなとは思んですけど、もう少し何かまち自体が小ざれいに見えると、きれいとはまではいかななくても小ざれいに見えるようなものっていうのがあって、以前の区政会議で多分、川本委員だったと思うんですけど、勝山通りを御堂筋のイルミネーションみたいにしたらどうやみたいな話があったと思うんですけど。そういうのとかをして、飾り付けというか、そういうのをやると、あそこ大通りなので、結構にぎわっていいんじゃないかなって思ったりします。もう少しまちがきれいに見える何かっていうのがあればいいなと思います。

○山納委員

はい、どうぞ。

○宮崎委員

すみません。コリアタウン、若い女性がどんどん、どんどん集まってきて、御幸森から北鶴橋のあたりは、もう平日でもごっつい人やわね。せやけど、その人らは別に、単なる観光客でね、観光客だけで地域と結びつくっていうようなことはないし、生野区で住みたいとか住み続けたいっていうような、そうでもないしね。そやから、いつも思うねんけど、何もせんでも天王寺区にどんどん、どんどん住みたい、住み続けたいという人が行ってね。生野区は空き家ばかりになってきて。そやからもう生野区やめて天王寺区、生野区、御幸森にしてくれたらなと思う、ほんま。

天王寺区は何も努力してないと思うねん。そやけど、あれ努力するどころか、五条小学校や桃陽小学校なんかはもうパンク状態になってきてるからね。そやのに、人はどんどん、どんどん住みたがると。住みたがるから、狭い敷地でも、あればあるほど探しまくってマンションを建てると。そしたら、生野区には大きな敷地も、空いてるところもかなりあるけど、巽のあたりにしろ、生野区でマンション分譲というのはほとんどなくなってしまっただけね。それだけ住みたくないんやろうね、生野区に。そやから、生野区に住みたくなるように今、いろんなことをあれするけど、そんなことぐらいで生野の何かはどうこうなることはない。そやから、何か目立ったアクションを起こす。生野区でこんなあるでっていうような。そら悪いことが起きて、反対でも起きたら、それは生野区また有名なるか知らんけど、そうじゃなくていい意味で生野区のイメージがよくなるやない。今また、こないだも、市議員も4人が3人になると。何でかいうたら、人口が減っていつてるからということやね。別に、生野区の敷地が狭くなっているわけでも何でもないのでやね、人はどんどん出ていく。そら人が出ていったら空き家が増えるのは当たり前からね。

それで、生野区で、だんじりでも9つぐらいあるんかな。それは、天王寺区にそんなだんじりないと思うねんけどね。だから、魅力はあると思うねんけど人が来えへんねんね。もう東京の人でも、生野のコリアタウンに1回見に行きたい言うぐらい知名度上がってきて、観光客がどんどん来ているのに、住みたい、住み続けたいという人がない。かたや環状線越えた向こう側の天王寺区はもう放つといってもどんどん、どんどん人口が、天王寺区や西区に人口が増えると。同じ大阪市内でありながら、生野区は逆に減るばかりやね。そやから、生野区にこういうアクションを起こしたら何かなるっていうようなのは、そういうことをやらしてくれるんかどうかいいうのも、また分からへんしね。

確かに、何もせえへんのに、コリアタウンなんかは、若い女性がどんどん、どんどん来て、今日でも小学校か中学校の学生が来てたから、すごい人でしたな。別にこっちが来てくれと言ってるわけじゃないのにね。一方では、御幸森小学校が廃校になり、今度、北鶴橋小学校も廃校ということで、それは子どもが減れば、学校を減らすのは当たり前やからね。そうすると、学校に通うのが不便になるから、余計人が住まないようになるっていう。逆行していくからね。

そやから、天王寺区に人が住みたがって、生野区やったら来えへんねったら、もう名前のせいじゃないんやろうけど。環状線の内側の天王寺区は人口増加で、外側の特に生野区は人口減少で。外側でも、東成区やとか東住吉区あたりはね、割と生野区みたいなことになってないからね。それから思ったらやっぱり生野区は嫌われているというかな、イメージが悪いんやろなと思うんやけどな。

それでも、住むということにかけたら生野区っていうのは一番地価が安いからやね。天王寺区で10万のとこを、生野区では5万で住めるんやからやね、半額で住めるんやからやね。それでも住んでくれへんやろ。こないだ御幸森で頑張っただけで花火を上げて、皆きれいやなって喜んでくれたけど、住み続けたいっていうことにはならない。よっぽどね、どつき倒されても住んでくれ、住み続けてくれと言わない限りは、普通じゃ住まんねんね。遊びに来るぐらいやったら生野区へ来てくれるか知ら

んけどね。ほんまに住みたい、住み続けたい区にするっていうことは、よっぽど大きなアクションを起こさんとあかんのちゃうかなと思うんやけどね。すみません。

○廣川委員

そうですね。さっき、天王寺には行くけど、生野から逃げていくっていう。ブランディングなんかとも思うんですけど。今、パソコン開いてて、生野って言葉を入力したら何て出てきますかね。この検索を変えれたら、結構面白くないですか。

○船方委員

コリアタウン。

○宮崎委員

コリアタウンが出てくる、メインでね。

○廣川委員

ああ、コリアタウンか。やばい町とか出てこうへんのかな。大体この、その検索順位をちょっと1位狙いにいくみたいな感じの目標も面白いかなって。生野、おもしろいまちみたいな。そうなったらすごい、何かブランディング定着してきたなみたいな。そこまではもう勝手にあそこめっちゃ住みやすいでとか発信する。ちなみになんですけど、生野にお店を持って、それこそアパートもちょっと所有することになって、生野を勝手に動く、生野のおっちゃん的な立ち位置になっていこうかなっていう、アクションをやってるんですけど。外とかの子をどうこっちに連れてくるかっていうような形のところで、さっき、宮崎委員がおっしゃってた、いや10万のところに住むなど。5万で何かやれっていうようなことを、なんか若い世代の子たちに話して、生野に連れてくる窓口みたいな。私は勝手にやってるんですけど、こういう勝手にやる人間を増やしていくのが重要なんじゃないかなっていう。

お店で言うと生野ぼんぼこ長屋大学っていうのをやってるんですけど、今はもうレンタルスペース、ちょっとお店っていったところの。飲食に偏り過ぎたらもう、飲食なんかちょっとやるもんじゃないなって、やってる人いたらすみません。飲食をやる、ちょっとやるもんじゃないなみたいな感じの負担感があったから、もう閉めて、まちなか大学っていったところへ振り切る準備を今してる最中なんですけど。そういうアクション起こしてたら、隣も空き家で話入ってきたりとかするんすよね。隣も空き家やからちょっと活用みたいな。その活用に当たって、何かもうハントしに行くみたいな。今、ごりごりの二日酔いなんですけど、昨日、南海難波の前に路上バーっていうのをやっている子たちがおって、立ち寄って飲んだら、「俺ら日本変えたいんすよ」っていう熱い若者で、お寺の掃除しまくってるらしいんですよ。こういうなんか愛すべき若者たちをどう包み込んでやるかっていう大人たちが増えないといけないのかなっていう。くくるんじゃなくて、何か羽ばたけるような。だから、外から生野に入れて、生野にずっとおらんと、外に羽ばたいていきやぐらいの勢いやったら、その人がもうロコミの伝導者みたいな、キリスト教みたいな形で生野教みたいな、何かまちのムード感で入って、何かいろいろと頑張ってるって外に出て行って、あのまちで何かいろいろとできたんやでみたいな環境を勝手につくろうとしてるっていうのが、今のやってることなんですけど。

区役所ってちょっと硬くないですか。関わりづらいなっていうのがあって、や

っば行政やなっていう。民間の人との距離が遠いから、そこら辺、何かできたら面白いっす。どうやるかの方法は分からないですけど、もうみんな個人単位で動きまくる区役所職員で、もう行政の仕事とかってほぼやらんでいいこととか多そうやな、ごめんなさいね、分からんけど、それ何かいっぱいタスクが増えてるだけで、省けるんじゃないのみたいな。

例えば、もう今デジタルやからそれをほんまに導入するやったりとか、お金もかかることやから、こんな勝手なことは言えないですけど、余力をみんな増やして行って、働かんようにしていきましょっっていう。遊べるような形のところで、生きるに当たって衣食住とかってよう言われますけど、やっば教育と遊ぶを追加した衣食住教遊っていうのを、自分はテーマでやってるんですけど、教育っていうところをアプローチできるまちやったら、もっともっと何か協力し合いながら育めるような環境をつくれたら住みやすいまちに変わるんじゃないかなっていう、教える教育もあれば共に育むと、育む共育もあれば協力し合いながら育む教育もあれば、これを相まったところが何か住みやすいまちに近づくんじゃないんかなっていう妄想癖がある中を、何か常、動くタイプの人間で、はい。そういう勝手にやってますっていう報告でした。すみません。

○北口（英）委員

そうですね。先ほど宮崎委員が言われたように、確かに、環状線の内側は、人がようさんいてるイメージがありますし、その外側となると、どっちかって言ったらだんだん寂れていく。かと言って、生野に住んでる僕でも思うのは、住んで別に住みにくいまちではないのは間違いなくて。ただやっばり、ある意味、さっき言った天王寺区というイメージと、生野区。それは僕が聞いても天王寺のほうがええなって感じは、それはしますけども。でも実際にマンション一つとっても、先ほど言われたように、確かに値段でいうと安く住めると。でも、安いからといってやっばり人ってなかなか動いて来ないもので。かと言って生野、僕が行ってる巽東地域でしたら、ある意味、地下鉄も千日前線通ってますから、難波にもすぐ行けるし、ロケーション的に全くもって何の不便もない。内環状の辺りなんか、食べ物屋さんもありますから、食べるものには困らんというふうな感じで、住めば都でええとこなんですけども。ある意味、私の地域に部分で言うたらもう、旧態依然としては、村が残ってるんで長屋とかそんなんばっかりなんで、マンションが建てば開けていくんでしょうけども、なかなかマンションも建つこともなく、年々、年々どっちか言うたら、人口というのは、人口というか町内の数も、出ていかはるんじゃないかって、亡くなって減っていくという。今、悲惨な状況にはなっているのは現実なんです。かといって、人が亡くなっていったとしても、長屋とか多いんで、なかなか、例えばマンションにはなったりはしない。歯抜けにはなっていますけどもというふうな現状です。その長屋に人が来るかというたら、旧態依然としたところ、確かに、今のマンションから比べれば確かに、長屋ってそんなきれいなものではない。リフォームいう手段はあるでしょうけども、なかなか家主さんもわざわざお金かけてリフォームする馬力もないというところが、今、現状なんです。となると、どないするか言うたら、その一角が、極端なこと言うたら、人がいなくなってから、ま

た再開発というふうな話。今すぐではない、はるか先の開発になっていくという悪循環なんですよ。これがもし、再開発というふうな意味で言いますと。

でもそれを、ある意味、よく京都、京町家がリノベーションしていったというふうな、ええような雰囲気、例えば、テレビですごくきれいになったよいうふうな、もう、ばんっていうふうな、どっかでそういうふうな長屋を宣伝するというか、そういうイメージの長屋があれば、もしかしたら、人が来るようになれば、リノベーションとかいろいろやって、できるかもしれないんですけども。ただ、いかんせん、人が寄ってこないという状況、これを打破しない限りは、どないもこないも先には進まないなど。そら、さっき言った大きくマンションが建ったりすれば、またちょっと変わるでしょうけども、それも、まだまだいけないというふうな現状を、何とかする方法はないでしょうかという逆質問になって、ちょっと終わらせていただきます。

○山納委員

はい、2巡目をしゃべろうと思います。この人口も減っていくし高齢化も進むし、ハードも老朽化していくみたいなものの中で、何か人が集まっている地域ってあるんですね。その地域をいろいろ見たり聞いたりしているのですが、例えば、この近くで言うと布施、これまだ再生してるとは言いがたい感じなんですけど、まあ、柄の悪いまちとか、ひたくり日本一とか言われていた何十年か前があったわけですが、商店街、大分衰退してきていて、空き家ができています。そこにSEKAI HOTELっていうホテルが出てきました。分散型ホテルです。空き家1軒1軒が客室で、フロントがある場所にあって、そのフロントに行ったらチェックインのときに、泊まる部屋はここにありますっていうのも教えてくれるし、お風呂は銭湯です。何とか湯に行ってくださいって、お風呂の入り方も説明してくれて、ご飯がおいしいところ、お酒がおいしいところはここです。モーニングがおいしい喫茶店はここですっていうことをすごい熱心に説明をしてくれる。今、建物が7棟18室あって、七十数名泊まると。こないだ、ゴールデンウィークなんかは満室でしたって言った。コロナで大分苦労したはずですけど、この何でもない商店街が何でしょう、訪れる、来街者魅力になっている。それに変えていこうっていうことをしている取組が布施にあります。

それに近い話ですが、暮らし観光っていう言葉が言われるようになってきました。ですから、名所旧跡に行くのではなくて、普通にそのまちで暮らしているような旅がしたいとか、普通の喫茶店に行きたい、魚屋さんに行きたいとか肉屋さんに行きたいというようなことでしょうか。地元の人と一緒にお酒を飲みたいみたいなことのために旅に行く人、特に若い人でそんな人増えてますね。そういう魅力を出していこうっていう動き、暮らし観光っていう動きがあったり、また、宿ですがまち宿、日本まちやど協会ってのがあります。そういう普通の生活商店街があるようなまちに宿をつくって、そういうところをもう、旅を変えていこう。何なら、ゆくゆくそこに移住したいっていう人たちのお試し移住っていうのかな、として宿屋をやるみたいなことが全国的に起きてきていたりします。

神戸の長田区ですが、梅元町という町があって、バイソンという名前で有名になってきましたね。西村さんという建築家の人、元々は神戸R不動産の営業をしてい

た人ですが、この人が空き家を改修し始めた。あそこは傾斜地に建っていて、接道義務を果たしてない、4メートルの道路なんかないようなところに建っているので再建築できない。そんな家を次々に改修をしては、人に貸したりとかいうことを始めていて、最近まち開きっていうのをやりました。若い人たちが何これ、どうかしてるって言って梅元町、バイソンに行っている。知り合いの和歌山市の市役所の職員が市役所を辞めて、バイソンに合流したりしてみたいなことが起きてます。お店とかもできている。アーティストも住んでいたりする。だから、空き家って、生野区の空き家がどうって言いますけれど、梅元町に比べたら大分いい場所にあると思いますよっていう。だから、ある熱量を持った人がここおもしろいって、まちに手を入れ始めると、そんなことが起きるなっていうのはよく見ます。

神戸市の灘区水道筋でしょうかね。灘区全般ですけども、慈憲一さんっていうデザイナーがいまして、慈さんは自分のことをナディストと名乗って、神戸市灘区を盛り上げることはとにかく俺がやるっていう人ですね。今、「ナダタマ」というブログをやっていたりしますが、商店街でイベントをやってみたり、灘区だから摩耶山の上でリュックサックマーケットっていうイベントをやってみたり、または、摩耶観光ホテルだった、廃墟になっていたホテルの廃墟ツアーをやってみたりとか。そんなことをどんどんやっています。水道筋商店街にいい飲み屋さん、ご飯屋さんがあることもあって、その辺、慈さんの影響で、灘区に移住した人ってまあまあいるんじゃないのかなという人がいたりします。

尼崎ですね。尼崎もあんまりいい印象持たれていなかったまちですけども、今だったら、ここにある藤本遼君という人が、尼崎ENGAWA化計画というのを2014、5年に立ち上げたと思います。塚口さんさんタウンの6階にある空き店舗を使って、2年間だけa m a r eっていうスペースを使って、喫茶店で次々とイベントとかセミナーとかをやっていました。市民をどんどん、どんどん巻き込んで、彼らの自己実現をそこで果たしてあげるっていうことを2年間やった後、尼崎にすごい自発的な面白い動きが増えました。福祉のイベントを彼らがやって、ミーツ・ザ・福祉っていう、もうこれまで障がい者は福祉のイベントに行きたくなかったんだけど、彼らのためのイベントを組み上げるっていうことをやって、これまでになかった集客を集めているとか。「カリー寺」っていうお寺に行ってカレー食べるだけのイベントに何千人集まるみたいなのが起きていたりする。

ですから、市民が自分たちのまちを楽しんで使いこなすっていう経験を、多分、藤本君を中心に随分、経たことによって、どうも反転している。主婦の人たちが、クリエイターの主婦の人たちが一緒になって、名前がど忘れしましたが、「ココスキ」か、という団体をつくって、いろんな仕事を受けたり、まちのイベントをやったりということをどんどんやってきていて、尼崎も反転してきたかなっていうふうな印象を持っています。

つい最近、大阪市北区の中津というところを盛り上げてる山田摩利子さんという人に話をしてもらいました。主婦です。山田摩利子さんはうめきた2期の暫定利用、まだ今、ちょうど来年建とうとしているまちが、まだ空き地だったときに何かやりませんかかっていうオファーを受けて、「分かりました、ホップを育ててビールを作

ります。」って言って、そこで活動をして、その暫定利用が終わった後、その動きを中津に持ち込んだんですね。東邦レオという植栽とか建築系の仕事をしている会社と一緒に、ホップを中津で育てて、そこに中津ブルワリーっていうビール醸造所をつくりました。そんな活動をしていたり、ハイパー縁側という、これは東邦レオの事業ですけど、もう街角でトークイベントやってるんですね。いろんな面白い人に来てもらってしゃべってもらってっていうのを、コロナぐらいから始めてもう270回やってるって言ってました。そうして、どんどん、どんどん中津の人たちが顔見知りになって仲良くなっていくっていうことが実際に中津で起きています。ですから、これも山田摩利子さんであったり、企業ですけど東邦レオという会社が、次々にまちに小さい面白いことをちりばめていったことによって、まちが変わってきているっていうことは、実際に起こっています。

さてこれは、生野とどう違うのかですね。多分、今言ったような人たちが一人いたら起こることなんです、この反転っていうのは。もしかしたら、僕らは気づいていないだけで、まちをよく見たら、生野を反転させかけてる人っているのかもしれないし、それは廣川さんかもしれない。よく知らんだけではないのかなと。こんな面白いことをやってる人たちのことをよく知らないで、僕らは魅力がないって言うてるのかもしれないっていうことは、注意しないとイケないなと思っています。

山田摩利子さんがしゃべっていたそのサロンの中で面白かったのが、新しい町内会を考えるみたいなテーマでしゃべったんですが、町内会は怖いっていう声があったんですね、敷居が高いっていうのか、オフィシャル感が強いっていう言い方をしたたかもしれません。ですから、何か関わったらこんなこともあんなこともさせられるのじゃないかっていう感じ。だから、さっきのやらなければいけないまちづくりっていうイメージが強過ぎるので、そんなホップ育ててビール作るみたいな、そんなことをやるイメージが多分、今までの町内会にはないのではないかと。

その面白いことをやっていく、さっきの何酒場でしたっけ、朝から掃除をしてたりするような若者がいて日本を変えるって言うてるような子らが活躍できる、活動できるフィールドが、生野のどこにつくれるのかっていうことでしょうか。そして、そんな難しいことじゃないよと、まちづくりなんて。面白がってればいいんだよっていうことを言ってあげる大人がいるっていうことが要るのかもしれないし、その支援型っていうものとテーマ型って言えばいいでしょうか。特に、この魅力、まちの魅力っていうものはこのテーマ型に関わりますよね。町家を改修してこんなことやったらおもしろいとか、花火大会をこんなふうやったらおもしろいとかいうような人たちがいるとか。一人だけではなくって、そんなことを言ったら実現するまちであれば、面白いイベントなんかどんどんできるだろうし、それが一旦できたら、それをどんどん、どんどん、SNSでもブログでも発信すれば、シティプロモーションになるっていう。ですから、そんな面白いことが起こってきたら、住みたいっていう人が増える。住みたい人が増えるから、マンションが建つみたいな順番で物事が進んでいくのじゃないかなと。他の地域を見ていて思ったりします。すみません、僕10分ぐらいしゃべったんじゃないでしょうかね。

ということで、あと1巡と言っていましたけど、もう、短くでもしゃべれなくても

いいので、もう1回ぐらい、皆さんがしゃべる機会を設けたいと思います。

○川本部長

今、ちょうど私が住んでいる勝山地区っていうのは隣がもう環状線で、すぐ隣が天王寺区なんですね。天王寺区でもいいぐらいの、ほんまに環状線まですぐのところ。だけど、あかんのですね、生野区というだけで。何でか。今、山納さんが言われましたように、私たちちょっとね、いろんな人材がいるやろと。それを邪魔してるのは私たちちゃうかと。こんなやりたいうってても、そんなあかんっていうのが従来の町会でね。おもろいやないかって言ってあげれば、人材は何ぼでもいてるような気がします。

私は、今提案して、今年やろうとしてるのはボランティアバンク。こんな私ができますよと。年に1回だけしかでけへんけど、日曜日の年に1回やったらこんな技術を持ってますよという人たちのバンクをつくって、その人たちにいっぱいいろんなイベントを任せていこうかなと思っています。だから、人材はいっぱいいるだろうと。その人材を邪魔しないような地域づくりね。私たち、僕はいつも老害、老害って言ってますが、老害は、もう口出すなど。うん。もう楽しいこと言うてくれたらやってやと言える、地域づくりをこれからやっていきたいなと思ってます。

○山納委員

ありがとうございます。

お願いいたします。

○船方委員

私、青少年指導員、青少年福祉委員をやらせていただいて、いろんなイベントを確かに、子どもたちのためにやってはいるんですけど、今回、今月はスリーアイズを、まちづくり協議会が主催で、運営のほうは青少年福祉委員がやるということで、中心でやらせていただいているんですけど。なかなか、結構、労力の要ることで、人っていう面でも、やはりちょっと地域柄、私、北鶴橋なんですけど、年々、青少年指導員とか福祉委員の活動に携わってくださる方が少なくなっていくっていうのと、あと福祉委員の方は65が定年ですので、次の、来年の4月で5人ぐらいいらっしやなくなる。でも、新しい人が入ってくるのは、一人か二人みたいな感じでだんだん、だんだん人数が減ってきて、なかなか地域のイベントを運営するのも、かなりきつい部分もあるんです。

そこをすごく助けていただいたら、もうちょっとやりやすくなるんじゃないかなというふうに思うんですけど、今回、スリーアイズをやるっていうことで、32チーム集めてくださいと、日本スリーアイズ協会のほうから言われてまして。どうしてもエイジング・ソサエティの北鶴なので、32チーム集めようと思って、今まで町会単位でチームを募るということをやってたんですけど、今回は、小学校に回覧を回して子どもたちのチームをつくってもらうという試みをして、子どもたちだけのチームは今回2チームできたんですね。それ以外の各町会にも働きかけはしたんですけど、各種団体のほうとかお願いしてもちょっと32チームは集まらなくて、24チームしか集まらなかった。でも、24チームの中でも初めての家族だけのチームとか、あと子どもだけのチームっていうのが今回新しくできたチームなので、そういうの

が続けていけば、もっとそういう地域の活動とかにも参加してくださる住民の方が増えていって、もっと活性化するんじゃないかと思うんですけど。そうなるにはやはりまち協のほうで、ここ運営やってなっているというふうに、ぼんって振られて、こっち側が一人できゅうきゅうとやるっていうのはすごく大変なので、その辺の協力をもっと、まちづくり協議会のほうからやっていただくとか、あと、校下を超えて協力いただけるような体制ができれば、もっと楽しいイベントとか、そういったものができて、どんどんそういうことをやりたい、こういうイベントをしたいという人が増えてくるのではないかなというふうに思います。

○山納委員

はい、ありがとうございます。

では、宮崎委員。

○宮崎委員

いろんなことあるけど、悪いことを言うてもしやあないな、何か未来の生野区を生み出して、ええことないかなって。僕、今一番気になっているのが、自転車マナーがね、生野区はナンバー1に悪いんですよ。これをひっくり返されへんかなと思うねんけど、生野区は自転車のマナーがいいというふうに、逆に言うたら、警察も協力はしてくれると思うけど、天王寺区ではきちっと乗ってるけど生野区では信号無視して乗るんじゃない。こんなことじゃなくて、生野区の自転車のマナーはよくなったよって言われたら、生野区のイメージがよくなるんちゃうかなと思うんやけどな。そういうふうな方向から攻めていくほうが、何かいいんちゃうかなと思うねんけど。単純に生野区の自転車マナーの向上を、もう徹底的にやると。よそが1,000万円の予算かけてやるんやったら、生野区はその10倍ぐらいの予算をかけて、自転車マナーの向上をやると。生野区の小・中学生はもう自転車、ヘルメット、全部かぶってると。ほかのとはかぶってないと。そのぐらい言われるようなことが、いいことで生野区はこれがものすごくいいって言われるような何かをこしらえていかんと。どんどん人口減って、悪いほうへ悪いほうへばっかり行くからね。

今さっき言ってたように、家賃が天王寺区が10万で生野区が5万でしょう。そうじゃなくて、天王寺区は10万で、生野区が6万、8万になるような政策を取らんことには、ようならへんねんからね。そやからもういいことだけを言うて、愚痴を言うててもしかたないから、こういうことをしたら生野区の未来が開けるんじゃないかないうようなことだけを集めてきて、それを行動に移すことをしていったら、多少でも明るさが見えてくるんちゃうかなと思うねんけどね。

生野区にいてて、こんなんあかん、こんなんあかんばかり言うててもしやあないからね。生野区で何かをやって、生野区の未来のためにこれをやろうっていう気分をつくり上げて、進めていくようなやり方をやらんと。僕ら未来ないと思ってんねんけど、未来のためにいいことだけをみんな発言してもらって、いうような形に持っていかなと。

今言うたように生野区の自転車マナー向上さすとか、僕は前から言ってるように、生野区の勝山通りのイルミネーションを強行して第2の御堂筋をつくるとか、何か明るくするようなことをやらん限りはね、結構、何もかもが集中したらかなりのこ

とができるんやないかなと思うねんけどね、10万人も人がいてるからね。

○廣川委員

宮崎さん、自転車屋さん作りましょう。GPS付の自転車作りましょう。あかるところ走ったら爆音なるような。

○山納委員

お願いいたします。

○廣川委員

先ほどの、川本委員の言葉は大分、すごく重要な、一番重要ぐらいな内容で。自分が若者やったときにそう、何か言ってくれる人はいなかったっていうような感じですね。やっぱ無意識の中の常識が強いんですよ、日本って。勉強するのがステータスだよとか、いろいろと分からんけどこれって当たり前ということが強くて、若い子がチャレンジできひんのかってそこなんですよね。集団の中からはみ出しているっていう感覚のところ。それをぶち壊せれるようなまちやったら面白いのかなっていう。やっぱり、日本って農耕民族やったから、集団で生きていくために、村八分とかいう言葉もあるように、そこからはみ出すっていうことは死に直結するっていう何か遺伝子レベルのところになってるんかなっていう、勝手な解釈なんですけど。それを何か打開できるのが、川本委員の発言、言葉かなみたいな。面白がって、無責任にやれっていう、この無責任さが多分、何か未来の責任を持つことになるのかなっていう、こういう時代に入ってきてるんかなって思う今日この頃ですね。

あと、何か、先ほど話が出た廃屋大学とか西村さんとかSEKAI HOTELとか、むちゃむちゃ友達なんですよ。今、本職工務店なんですけど、SEKAI HOTELを設計した子と今、仕事とかしてて、だから、やっぱりそういうまちづくりのところのアンテナのところで、知らないところをちょっとおっしやってたんで、インプットさせてもらおうかなっていうとこと。

もうちょっとしゃべらしてもらったら、これ勝手なんですけど、遊牧民との農耕民と狩猟民っておるんですよ、なんかちょっと感覚的な人間なんですけど、この人遊牧民やなみたいな。狩猟民は簡単に言うたらゼロイチをつくるタイプなんですよ。遊牧民ってゼロイチをサポートするみたいな。農耕民は1を10とか100とか1,000とかにする。その人のスキルに、スキルっていうかパワーによって、そういうふうに変わるんですけど、どれだけ狩猟民を見つけてきて、生野区面白いからとあてがうかみたいな感じで、ちょっと思ってる。自分、狩猟民の中で、今は遊牧民に声をかけて、外に出ていく、対外的に動いていける子をつないでもらうようなアクションを、今やってるっていう、感覚的な話ですけど。今、ちゃんと仕事もしている中で、借地の物件多いっすよね、生野って。借地の上に長屋建ってるんですよ。これ結構面白いっす。長屋一帯ジャックしたいなって、ちょっと思ってるんですけど、やっぱ潰しにくいんですよ。長屋が建ってて、1個切り離したら、長屋で耐震、耐久をもたせてる中で、切り離しの同意書とかがいるんですよ。真ん中切り離すとかってなったら。建物のこと分かってる人やったら書きたくない。なぜなら単独で建つようになるから。ほんならもう強度も弱まるっていったところと。あと、相続のタイミングが重なってる。3世代目に入ってて、おじいちゃんがその建物をつくって息子

さんになりました。孫の代になってる。今、過渡期なんかなっていう、このお孫さんってやっぱり働き方が変化してて、都心部、関東やったりとか行って帰ってこうへん。ここにどうアプローチをするかっていうことが大きな課題になるのかなっていう。

さっきの借地で言うと、実際、借地権割合とか借地権の売買とかで、今回、生野の長屋大学のところは譲ってもらって、相続で困ってたんで安く譲ってもらったんですけど、17坪で1万7,000円。やっぱり若い子がチャレンジするにはもってこいなすよね。上物のところだけいただいて中の改装費が大体400万ぐらいかけて仕上げましたと。そして、若い子にやれと。本職はあるので、そこのところで賄ったりとかもしてて、今、その若い子は社会に出たことがなかったから、社会に、1回仕事、働いてみるって言って外に出ちゃったんですけど、それで動かなくても、別に、1万7,000円の固定費ってしんどくないってというような立ち位置に今、頑張ってるって働いてなったので、そういった形の意識観の人を増やしていくっていうか、もう不動産を資産と思わなくてどう解放するかが、テーマになってくるのかなっていう。そこに対して資産価値がついていくような生野区になっていくんじゃないのかなっていう。それを理解する地主さんがどれだけおるのかなみたいな、増えていったらいいかなっていうので、今、隣の地主さん、持ち主、所有者ですね。地主さんは一緒なんで、建物の所有者をちょっと、奈良の人なんですけど、そういう形で口説いて、ちょっとアプローチしませんかみたいな。ちょうど積水ハウスの設計者の人やったんで、そういうようなアクションをしてるっていう感じですかね。みんなで何か面白いところ見学に行きましょう。アテンドします。

○北口（英）委員

皆様からいいお話を聞けて、特に、さっきも言ったようにうちはちょっと、歯抜けの状態の空き家が多くなってきているところ、さっきのお話みたいなことがもしできるのであれば、ある意味ね、そういう意味では、人が来れるようなまちには転換できるかなという、ええ話は聞けたとは思いますが。あとは、先ほど廣川さんも言うてはったように、地主の人、僕ら世代の人やったら、そんなんええよという感じではいくんですが、やっぱりお父さん、お母さんいてはると、なかなかうまいようには、ちょっと待てとかいうふうなストップがかかるケースは、次になかなか進めないというケースもやっぱりあるんで、それを説得する方法も、これからはいろいろ考えていかなあかんのかなとは思うようにはなりました。こうやって、生野区の未来という大きな話ですけども、でも、何か小さなことでも手を打っていかんと、やっぱり将来的には何もできないようになってきますんで。何とか微力ながらもちょっとお手伝いさせていただきたいと思います。また、よろしく願いいたします。

○山納委員

ということで時間いっぱいになりましたね。マイクを部会長にお返しします。

○川本部会長

山納委員、本当にありがとうございました。

いろんな面白い意見もたくさん出ました。その中で、何か一つ、話だけではなしに仕掛けていきたいなと思っております。それでは、会議を踏まえまして、区長さ

んから最後一言。

○筋原区長

皆さん、熱心なご議論、今日もありがとうございます。本当に刺激的なお話を聞かせていただきました。感謝申し上げます。

おっしゃっていただきましたように、生野区はすごいポテンシャルがあると思っ
ていまして、既に、面白い人材、面白い場所、面白いことをやってる人っていうの
は、明らかにたくさんいて、力のある専門家もたくさんおられて、やっぱり僕も、
そういう方々をまずつなぐ、つないただけでもすごい力が生まれるんじゃないかな
という思いで、「EXPOいくのヒートアッププロジェクト」と言ってますけれど
も、これ、万博を契機にそういうネットワークをつくっていきたい。面白いことを
しておられる方々をつなぐネットワーク。それから、空き家もたくさんありますの
で、まさに、廣川さんおっしゃったような空き家ですね。改修してリノベーション
をして、改修費400万やったらいけますよねっていうか、オーナーさんもね、短期
間でそこそこの利回りで回せて、成り立ちますよね。というすごい手応えを感じま
して、そういうことで空き家活用株式会社とも、昨年度は、一度、実験的にやっ
てみましたので、それは、今年それを本格展開する事業者も公募してやっております。

それから、ものづくりも面白い、力のある町工場たくさんありますので、いろい
ろな、これは、BtoBであれば、ベンチャー、大学の研究者のアイデアを、町工場
の力で形にするという新しい下請の形というのものもあるでしょうし、BtoCであれば、
デザイナーと組んで、新しい製品をお客さんに届けるという、これは私の実感では
BtoCに行くには相当高度な技術がないと成り立たないと思うんですけど、でもそ
の技術を持つ町工場は生野区にたくさんあるっていうことも実感してますので、い
ろいろな展開ができると思っております。

そして、こういうものづくりのコーディネートをする事業者も公募をいたしまし
て、これは、八尾でいろいろ展開しておられる、友安製作所さんが来てくださって、
そこと組んでやるということになりましたので、面白い展開になると思っております。

それから、今申し上げたような、EXPOいくのの熱量を上げるというコーディネ
ーターも今、事業者公募をしておりますので、今年、本格的に区役所も予算もつ
けて、こういう展開をしていきたいと思っておりますので、ぜひ廣川さんも、まさ
に最前線で実践しておられますので、いろいろ具体的な相談したいことが思い浮か
んだので、よろしくお願いします。

非常に貴重なご意見をいただきました。これは全てやっぱりエリアリノベーショ
ン、エリアの価値を上げる、やっぱりオーナーさんが不動産の価値が上がってきた
ということを実感していただくということが大事だと思います。これは川本委員
のおっしゃっていただいた、面白いことをする若い人材ですね、邪魔をせずに応援
してあげるといのは、これは実は、私も異和共生って言ってるのは、まさにその
感覚でございますので、それが非常に大事で、やっぱりそういう社会情勢、面白い
ことを許容、新しいことを許容してあげるとい、そういう力のあるまちっていう
のがこれから勝ち残っていくと思っておりますので、非常にいいお話をいただきまして、

これから、具体的な動きにつなげていきたいと思います。よろしくお願ひします。
ありがとうございました。

○川本部会長

今日はどうもありがとうございました。どこかに書いてあって、これ面白いなと思ったのは、行政は人を集めるのは得意やけども、人が集まるのは苦手やということを書いてました。これからとんでもないことをやる若者が集まって、それをちゃんと見守っていただければ、まちは活性化するのかなと思います。よろしく、今日はどうもありがとうございました。

○杉本区政推進担当課長

すみません、皆さん、ちょっとだけ事務連絡といいますかお知らせを簡単にさせていただきます。

今日、資料お配りしてるんですけど、参考資料3、区政会議の委員改選というのがございます。委員の皆様の任期が、条例で1期2年、最大2期4年となっておりますので、委員の皆様の任期、一旦本年9月末ということになっております。10月以降の委員の選定について、今、地域からのご推薦など、いろいろ手続を進めているところですので、本部会の、このメンバーとしては、部会としては本日で終了ということになってございますので、また引き続き、全体会もございますので、また、よろしくお願ひしたいと思います。

そして、資料の裏面に名簿がございますが、本部会で言いますと、船方委員、宮崎委員、そして本日ご欠席の古本委員、3名の方が、任期4年務めていただいております。任期満了ということになってございます。せっかくなので、任期満了の方、一言ずつご挨拶いただけたらと思っております。

まず最初、名簿の順で言いますと、船方委員、一言、すみません、よろしくお願ひします。

○船方委員

はい、もう2期も務めたのかというのが正直なところで、本当に、最初参加したときには、いろんな行政の仕組みとか、そういったものが全く知識がないので、今でもそうなんですけれども、いつも何か突拍子もないことを言ってみたりとか、何か全然この提案にもならないようなことを言ってみたりとか、そういう気がするんですが、でも、区役所の皆さんと密に話をするとか、そういった機会っていうのはなかなかないので、いい経験をさせていただいたと思っております。ありがとうございました。

○杉本区政推進担当課長

それでは、続けて、宮崎委員、よろしくお願ひします。

○宮崎委員

コロナがあったから、余計短く感じるんですけど、ものすごい、いろんな意味で、もっと早いうちにこういうこととして、いろんな勉強したかったかなと思います。今後、できるだけ女性の方で、なおかつ若い方に参加してもらって、いろんなことを取り入れてもらって、話だけではなくて、ちょっとでも具体化するよう、いろんな面で、具体的に動いて、生野区の未来がちょっとでも明るくなるように、今言う

てるように、生野区で子育てしたいなとか、生野区の老人人口ばかり増えるんじゃないなくて、生野区の子どもの人口の割合が増えるような何かを区政会議でこういう結論を出して、こういう行動を起こした、アクションを起こしたからこういうことになったってというような方にならんかなと思います。

○杉本区政推進担当課長

皆さまありがとうございました。

次回は7月27日に第1回全体会の開催を予定しておりますので、また、活発なご意見をよろしくお願ひいたします。

それでは、本日のまちの未来部会を終了させていただきます。

皆さん、お疲れ様でした。ありがとうございます。